



4月に入り、タイの首都バンコクは最高気温が35度以上の日が続いている。暑さがピークとなり、タイの伝統的な旧正月「ソンクライン」(4月13～15日)を迎えた。ソンクラインはもともと、仏像や仏塔、さらに年長者などの手に水をかけてお清めをするという伝統的な風習が受け継がれてきたが、近時では街で通行人同士が水をかけ合ったり楽しむ「水かけ祭り」として知られている。私もバンコク市内の祭りの有名スポット「シロム通り」、「カオサン通り」に3日間通い、大型の水鉄砲を抱え、水のかけ合いに連日参加した。通りでは、老若男女や国籍問わず、祭りを楽しむ多くの人を見た。この祭りは「無礼講」のイメー

タイの旧正月と水鉄砲

サステナブルなお祭り

ジが強いが、参加すれば「携帯やカメラに向けて水をかけない」、「食事をしていない場所、駅などの公共な場所では水をかけない」、「水をかけられても笑顔で返す」など暗黙のルールがあることが分かる。

今年のソンクラインでは、バンコク全体で314万人が主要会場を訪ねた。また祭り初日だけで、ごみが86ト回収された。こうした状況下、バンコク都庁は「水鉄砲リサイクル・プロジェクト」と、最もサステナブルな取り組みを発表した。都はタイの石油化学事業を手掛ける財閥と手を組み、壊れたり、不要になったりした水鉄砲を回収し、再資源化するキャンペーンを今月19日まで実施した。3月以降、中東情勢の緊迫化に

伴う原油価格の高騰と物流停滞により、タイ国内で燃料(ガソリン・ディーゼル)の供給不安が深刻



化しており、石油製品を原料とするナフサも不足している。回収ボックスは、水かけイベントが開催された商業施設などの入り口前に設置された。リサイクルイベントに、タイ人や外国人旅行者がどのように対応するのか気になり、19日の朝にボックスをのぞいた。量的にはわずかかもしれないが、リサイクルに対する意識が高まる好機となったと感じた。

ソンクラインは、2023年12月に国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産に正式登録されたが、単に伝統的な文化として認知されるのではなく、サステナブルな取り組みも遺産として継承されることを期待したい。また単にリサイクル回収の意識の高まりだけに終わらず、ごみのロスや分別回収に対し、タイで生活する全ての人の意識向上につながるよう切望する。(岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所長 高橋英孝)